

北海鋼機デザインアワード NEWS  
は、本アワードの審査会の様子などをレポートするものです  
発行:北海鋼機デザインアワード事務局

### 第1回審査委員会

日時: 2023年7月11日(火)

会場: ニューオータニイン札幌

参加者:

審査委員長

松島潤平

[北海道大学大学院工学研究科准教授]

審査委員

村田利道

[北海鋼機株式会社代表取締役社長]

小西彦仁

[(公社)日本建築家協会(JIA)北海道

支部長]

川島隆司

[北海道板金工業組合理事長]

横尾淳一

[(株)竹中工務店]

植田暁

[NPO法人景観ネットワーク代表理事]

事務局

弘田亨一

[北海鋼機デザインアワード事務局

実行委員長 / (公社)日本建築家協会

(JIA)北海道支部]

小倉寛征

[(公社)日本建築家協会(JIA)北海道

支部]

原口佳己

[北海鋼機株式会社]

佐藤正人

[北海鋼機株式会社]

石川美帆

[北海鋼機株式会社]

記録

登尾未佳

応募要項など詳しくは下記へ  
アクセスしてご確認ください。



<https://www.hkoki.co.jp/html/download.html>

第6回北海鋼機デザインアワードの応募登録が  
2023年7月1日(土)より始まりました。  
今回より、審査委員長に北海道大学准教授の松島潤平氏をお迎えして、  
新たなテーマを設け、審査基準も一部リニューアルされました。  
7月11日(火)には審査員および開催関係者が顔を合わせ、  
審査基準の確認をはじめ、審査への想いや期待などが語られました。  
その内容についてご紹介します。



### ●新たなテーマと審査基準等の変更点とは？

#### ・テーマは「鉄がつくるこれからの原風景」

松島審査委員長によるテーマの趣旨は以下の通りです。  
「積雪寒冷地である北海道において、建築板金は外断熱・通気工法の先導的普及と帯同し、  
独自の生産体制・技術発展を為して、これまでの道内都市部の原風景の一端を形成してい  
ます。

そうした地域性が醸成されるなかで、鉄や板金に対する人々のイメージは大きく変わり、「固  
い／柔らかい」「高耐久性／経年美化」「工業的／手仕事感」「低コスト／高級感」等の相反  
する感覚が、スケール・時代・場面によってシームレスに揺れ動いています。

文化的成熟を経て生まれる、人・場所・条件によって異なる鉄・板金の多様なマテリアリティ  
に基づいたこれからの北海道の原風景はどのようなものになっていくのでしょうか。今回の  
アワードが応募者の皆様と考へ、展望する一つの契機となることを期待しています。」

#### ・審査基準の変更点

前回より変更になったのは、下記項目の3つ目と4つ目です。鉄の使用によって、下記の  
いずれかあるいは複数の項目に該当する作品を評価します。

- ・優れた景観形成に寄与する外観をもっている
- ・建築内部または周囲に優れた空間や領域を形成している
- ・独自性・新規性・将来性のある鉄材の利用をしている
- ・鉄の特性や経年変化を活かした造形・表情を提案している

#### ・プレゼンテーションパネルの変更点

サイズは前回同様にA1ですが、横使いに限定されました。

詳しくは、北海鋼機株式会社のホームページにてご確認ください(左記URL、QRコード)。

### ●審査員が寄せる審査への想いと期待(敬称等略)

**松島:** 建築板金は、使い方や使う人によってバリエーション豊かに印象が変わる、非常に  
面白いマテリアルだと改めて感じています。北海道の原風景のひとつになっているという  
話もありますが、今回は未来において原風景になっていくもの・なり得るものって何だろ  
う?ということを考えたい、そうした想いをテーマに込めました。審査基準では、近作だ  
けでなく、経年変化といったポイントも含めて発見や表現を感じられるものも受け入れる  
スタンスで項目を設けさせていただきました。新しい技術で今新しいものを作るだけでな  
く、もう少し長い時間軸で捉えて、建築板金や鉄材が建築、もしくは都市空間、さらには  
地域の風景にどう寄与するかということを皆さんと考えていけたらと思います。

**村田:** 私は素材(鉄)をずっと作ってきました。鉄はリサイクルもできますし、文明の歴史  
の中でずっと使われてきているものであって、多分未来にもまた残るものであると思い  
ます。産業の中で一番CO<sub>2</sub>を出しているのは実は鉄鋼なんですけど、今、どうやって環境に  
やさしく作るか、そのプロセスを変え、未来に残る素材として鉄を使ったものをPRして  
いきたいと思っています。多分、他の審査員とは全然違う視点で審査をしたいと思います  
けれども、よろしくお願ひしたいと思っています。

**小西:** 板金はエクステリアのマテリアルですが、インテリアとしても十分に使える素材に  
なるといいなと思います。インテリアの繊細な仕事もできる技術を持っているのが北海道  
の板金業者さん。そういった建築がもし出て来れば楽しいかなと思います。外もいいけど  
中も…。

**川島:** 私は板金屋ですから、できれば少しでも多く板金を使われていけばいいなと思  
います(笑)。小西先生がおっしゃったように、今、実は内装に使用するための板金というの  
も徐々に始動しております。内装、外装にたくさん使っていただくことにこしたことは  
ないですけども、今まで見たことのないような板金の使い方があると、ちょっと楽し  
みかなと思います。

**横尾:** (今回テーマの) これからの原風景とは、逆に言うと、審査員が原風景をどう考  
えているんだ?というのを応募者の皆さんに試されるような気がしています。また、  
応募者には鉄をテーマにしていることにあまり触れない方がいるとうかがいましたが、  
触れて欲しいと思います。

**植田:** 指標が3つあります。1つ目は、オーソドックスに板金技術の継承です。2つ目が、  
やはりこの先の原風景をどう作るのかという話。それには2つの道があって、一つ(指  
標の2つ目)は将来的にスタンダードになるような表現で、多くの人が追随した結果、  
きちんとした風景を作り得るかどうか。それからもう一つ(指標の3つ目)は、作品性の  
高い表現、あるいは「こういう使い方をしてくれるのね」という発見。これらの3つの  
視点から、皆さんと議論したいと考えています。

以上、まだ応募登録をしていない方や迷っている方は、参考にしていただけましたら幸  
いです。応募者の皆さまとこれからの原風景を考えるデザインアワードとなることを期  
待しています。  
振るってご応募ください!



審査員(写真上より、松島潤平氏、  
村田利道氏、小西彦仁氏、川島隆司  
氏、横尾淳一氏、植田暁氏)

